

大阪府保育士会だより

平成23年9月1日

第88号

大阪府社会福祉協議会  
保育部会・保育士会  
大阪市中央区中寺1-1-54  
TEL 06-6762-9001

# ほほえみ



## 盆踊り たこやき音頭も



## 「流れ星」や「キラキラ星」活動



今年も子どもたちは「アンパンマン音頭」や「たこやき音頭でパッキュンコ!!」などを踊りました。8月に入ると、体操の時間に音頭を流しますが、「いつ踊るの?」「なに着ている?」などと子どもたちの会話ははずみずみです。当日は仮装大会やビンゴゲームもあり、地域の大人も子どももひとつになつて楽しい夏の夕べを過ごすのです。

(泉南市 西信達保育園)

毎年8月14、15の両日、青年団主催の盆踊り大会が行われますが、午後7時から8時ごろまでは子どもタイムなので、地域の子どもたちも参加します。

## 地域と共に

## ふれあい大切



ギンガ保育園では「キラキラ星」と「流れ星」の二つの地域交流活動があります。「キラキラ星」は園内で、「流れ星」は園外で行います。1・2歳児の園児たちと地域の親子と一緒に絵本や遊戯で楽しい時間を過ごす場になっています。リトミックやクッキングも人気の活動です。育児相談は、特別に時間を取るのではなく、保育の合間をぬって、気軽にできるので大変喜ばれています。これからも大切にしていきたい交流です。

(枚方市 ギンガ保育園)



子育て支援シリーズ③⑩

## 月1回保育園体験

## 「ふれあい」

## 0〜2歳児保護者対象 家庭医療の処置法など



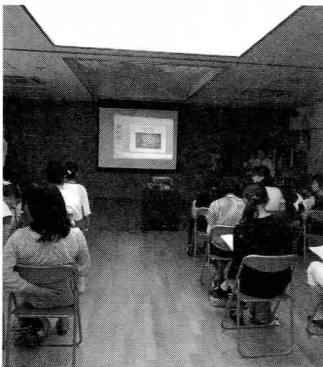
千塚保育園では毎月1回、保育園体験「ふれあい」を行っています。対象は0〜2歳児で、戸外遊びや制作、リズム遊び、夏は水遊びなど園児とふれあう機会を設けています。

保育園体験に参加された保護者同士が懇意になったり、情報交換するなど交流の場にもなっており、参加者も増えています。当園には3名の育児相談員の資格をもつ保育士がいますので、育児の悩みなどを相談される方も多いようです。

今年7月23日には看護師先生から「小児医療における家庭での処置法」をテーマに講演会を行いました。小児の事故や救急処置法などが内容の話で、参加された保護者の方からは「処置の方法を知ることができて良かった」「夜中に電話相談をしたことがあり、パニックにならず対処したい」と思い参加した「病気の症状など情報を知らないのでは注

今後とも保育園体験をはじめ、講演会や園庭開放も含め継続、少しでも子育てに悩まれている方の支えになればと思っています。

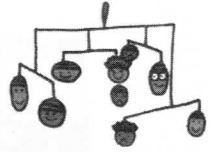
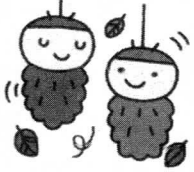
(八尾市 千塚保育園)



# スキルアップで専門性を磨く

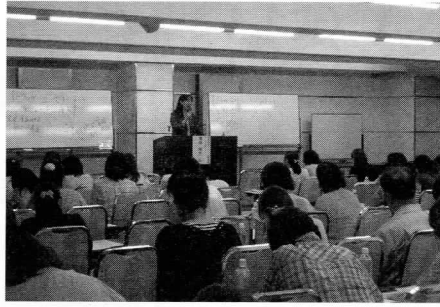
## 保護者への対応・交渉術など

— 保育士連続研修会に118人参加 —



「保育士の専門性を高める連続研修会（園長・リーダー・主任保育士研修会）」が8月1、11、19日の各日、大阪社会福祉指導センターと大阪府社会福祉会館で開催され、118名が参加されました。

初日は武庫川女子大学の倉石哲也准教授が「配慮が必要な保護者への対応を考える」保護者から学ぶ親支



援」をテーマに、様々な価値観を持っている保護者への対応の仕方や考え方の事例を挙げて指導。続いて育ち合い研究所の地頭所孝子氏は「子どもの体と心のしくみを知る」人間はごちゃごちゃしながら学び育っていく」と題し、ビデオを使いながら人間の脳の仕組みなどについて分かりやすく解説されました。

2日目の講義はマザー・アールスエデュケーションの松木正氏の「子どもたちの自己肯定感を育むために」。見方が変われば、相手を受け止める感覚も変わることを教えられました。また、有限会社レイズ・人材育成コンサルタントの増田知乃氏は「組織マネジメントに活かす交渉術」について。三角ロジックを使い、主張と客観的なデータを結びつけ

23年度近畿ブロック保育研究集会が7月21、22の両日、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで開催されました。台風6号の近畿接近も前日に通過し、参加者は943名にのほりました。

「びわ湖ホール声楽アンサンブル」によるオープニングセレモニーが華やかに始まったあと、主催者挨拶と来賓祝辞、さらに厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の森田博通課長補佐から「子ども・子育て新システムに関する中間とりまとめ」についての行政報告が行われました。研究集会は、8つの分科会に分かれて研究発表があり、それぞれの講師から助言が行われました。



る理由などグループディスカッションを通じて指導されました。

最終日は「発達障がいをもつ子どもたちの理解と実践」（東大阪発達障害支援の会ピエアの松尾めぐみ氏）、「行動分析から見た保育士の専門性」（立命館大学の谷晋二教授）、「障がいをもつ子どもの親支援」（大阪市立総合医療センター言語聴覚士の堅田利明氏）それ

第1分科会では「保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供する」を研究テーマに京都の2つの保育園が実践発表されました。

子どもの成長発達段階に分けて提供する保育について。助言者の大阪総合保育大学児童保育学部の大方美香教授は、いずれの研究も素晴らしい

## 子どもに「好き」と言っていますか？

### 自尊心を持てる保育を

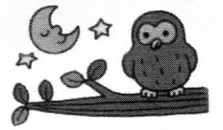
#### — 23年度近畿ブロック保育研究集会 —



一つは「あたたかい言葉の保育」を目指したことから始めてきた、子どもの変化について、もう一つは子どもが自尊心を持てるように子どもに「好き」と

これらの講義が行われました。変化の激しい社会で、保育士のスキル（能力）を高め専門性を身につけることが、様々なことに対応し、良い保育に繋がることができるのではないかと感じさせられました。

（大阪狭山市 つほみ保育園）



いう言葉を使っているかまぶ振り返らないといけない」と強調されました。

2日目は記念講演。シンガーソングライターの新沢としひこ氏によるコンサートで、「がちりガード」などの体操で大いに盛り上がりました。



（東大阪市 本庄保育園）

学びシリーズ⑩

子どもの発達に即した保育について ①

大阪総合保育大学

大方美香 教授



保育は、すべての子どもたちが、かけがえのない存在として、自信を持って生きていけるように一人一人を育てることです。子どもの発達に即した保育とは、ヒトとして何が育つ時期かを考え、どのような経験の種を蒔くことが子どもの育ちに必要かを考え、遊びや環境を創意工夫することです。

家庭養育を社会全体で考えていかなければいけない時代です。私は、祈る思いで先生方にこの紙面からお話ししたいと思います。

保育士の専門性とは、「人間教育」です。私も皆様が、誕生したときは、赤ちゃん（乳児）でした。今、大人である私たちは、なぜ歩き、言葉を話し、考え、記憶し、思い出があるのでしょうか。それだけではありません。大人になった私たちは、様々な食材を食し、消化し、排泄をします。また、ヒトはヒトと関わり、コミュニケーションをとりながら様々な感情などを抱きます。このヒトとしてあたりまえの生活が生きる力であり、母胎で身体



を縮めていた胎児の時代にはかなわなかったことです。人間が人間らしく生きる力は、生きた年数で自然と獲得する力ではなく、発達過程という育つ時期があります。「子どもの発達」というと、言葉が難しく感じますが、保育士が「出会った乳児を抱くことなく寝かせていた」としたらどうなるでしょうか。「寝たきり赤ちゃん」は、果たして年齢がくればある日、自分で起き上がるのでしょうか。身体を縮めていた赤ちゃんが、のびのびと手や足を伸ばし、背筋力がつき、自分の身体を支えるようになる発達過程は、一人一人異なる

誰が、何月何日にとはわかりません。「自分の身体を支える」という発達を「抱く」という養護の視点で保障し、子どもが「○○ちゃん、抱っこしようね」という大人の声を聞き、感触を覚え、違いがわかっていくことが教育の視点です。保育は、この養護と教育を総合的にとらえ、「乳児が心地よく感じるように抱く」ことです。

子どもの立場にたった、あらゆるところに存在するこの発達の視点が保育には求められています。何かをするのではなく、何を育てるために保育をするのかを考えてみてください。

子どもを性被害から

守るために

保育士研修会で徳永氏

保育士研修会は6月28日、大阪府社会福祉会館で開かれ、徳永桂子氏（CAP）にのみや・思春期保健相談

士が「子どもに伝える性のはなし」子どもを性被害から守るために」をテーマに講義されました。徳永氏は3歳からの性教育を提唱されています。

を知らない、恥ずかしい、誰に相談してよいかわからない。また、身近な人が加害者の場合、他の人に相談するとその加害者が困ったことになるのではないかと考え、言い難いということもあるそうです。

年長児ともなると、身体のことに興味を持つようになるものです。「赤ちゃんはどこから出てくるの?」といった問いにとまどう方も多いでしょう。

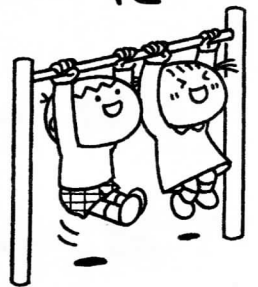
子どもの性被害は警察に届出があるだけで2600件、実際はその何千倍にものぼるといわれています。しかも被害を受けても興味本位に子どもの身体を見るべきものではないという事です。

徳永氏によると、言葉

徳永氏は通常子どもたちに行っているワークシoppを実演。その中で、自分の性器について興味を示すことは当然のことと指摘し、要は子どもに考えさせ選ばれる自尊感情が大切であると強調されました。



（泉佐野市 なかよし保育園）





# 楽しい保育活動

## みんなで踊る納涼祭



すことで、納涼祭への期待が高まります。うちんの下で、誰もが夏の夜のひと時を楽しみました。

年長組はみこしを考案、製作します。そのみこしを、4歳児と一緒に持ちますが、「来年はほくたちのばん！」とみこし作りを引き継ぎます。また3歳児は「来年はみこしをもつんだ！」と意識するようになります。そしてやぐらの周りで、みんな一緒に盆踊りを踊ります。

### 年長組はみこし作り



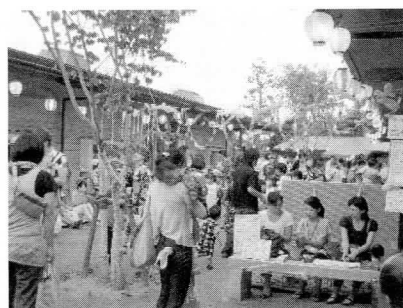
園と保護者会が共催して繰り広げる「納涼祭」が今年も7月のある土曜日、夕方5時50分開始、夜の9時まで開かれました。

その日は園児のお昼寝中に、園庭にやぐらを組み、園児たちが作った色紙花を飾り、中庭にはちょうちんを取り付けます。

受付、スーパールすくい、輪投げ、食べ物コーナー、看板、遊びコーナー、かき氷店などを準備します。

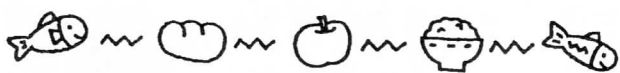
当日まで何回も会議を重ね、職員も悲鳴を上げるほどの大忙しです。

子どもたちには「お祭りがあるんだよ。たのしいことを考えているのよ」と話



当日は、家族参加の園児だけでなく、懐かしい卒園児、一時保育利用の子どもたち、地域の子どもたちも集まり、歓声があちこちで上がります。

ほんわかと照らすちよ



### 保育のあんな工夫こんな工夫

## 月1回の「感謝の日」



— 食べること、遊べることへの感謝の心を育む —



「感謝の日」を設けさまざまな活動を行っています。食べられることへの感謝、遊べることへの感謝など、生きていくうえで多くの人や物に支えられていることに感謝する心を育むのがねらいです。



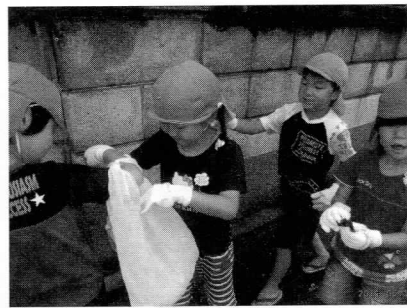
各年齢でできることは異なりますが、普段の生活の中で、子どもたちが感謝する気持ちに気づいてくれるような保育を職員も心がけています。

例えば、いつもは家の人ややって来てくれる着替え白ツカーの整理をしたり、

感謝という観点からはずれるかもしれませんが、食材への興味や関心も芽生え、食育にもつながるのではな

いかと感じました。今年度から始めた取り組みなので、まだ手探りの状態ですが、年間を通し、子どもたちだけではなく職員も一緒にやって、どんな小さなことでも、当たり前にも思っているようなことにも感謝する心を育てていきたいと思っています。

(堺市 石津川保育園)



破れている絵本を直したり、地域のゴミ拾いなどです。食べることへの感謝に気づいてもらえるように、感謝の日の給食は白いごはん

と具のたくさん入った味噌汁です。こぼさないよう味わって食べるのですが、子どもたちの間から「お米って甘いね」「お味噌汁に野菜がいっぱい!」といった声もあがります。

破れている絵本を直したり、地域のゴミ拾いなどです。食べることへの感謝に気づいてもらえるように、感謝の日の給食は白いごはん

と具のたくさん入った味噌汁です。こぼさないよう味わって食べるのですが、子どもたちの間から「お米って甘いね」「お味噌汁に野菜がいっぱい!」といった声もあがります。

### おまごが食育フェスタ

8月2日(火)に大丸心斎橋店で開催されました。



食育フェスタ2011

### 編集後記

子どもたちの水分補給に心を砕いた夏も終わろうとしています。いつの間にかセミの声も聴かれなくなり、やがて園庭にやってくる赤トンボが楽しみです。

この夏は「なでしこジャパン」が、仕事とスポーツを両立させた地道な努力を、世界の舞台での優勝に結実させ、素晴らしい感動を与えてくれました。東日本大震災の復興半ばは、元気を失いがちだった日本に、あきらめないで前を向いて進むことの大切さを教えてくれた。世界に日本の頑張りと感謝の気持ちや伝えてくれた「なでしこジャパン」は私たちの誇りです。保育の仕事も地道な日々の積み重ねですが、最高のご褒美は子どもたちのほじけるような笑顔! さあ、秋に向けてともに頑張りますよ!